

## 市営バスについて

質問（高野礼子議員）市民の足として重宝とされている市営バスの利用状況と原油高騰による料金値上げの考えはあるか伺います。

答弁（市長）市営バスは、旧黒羽町が昭和五十一年より五路線、大田原市が平成四年より五路線、合併時に二路線を増やし、現在は計十二路線で運行しております。また、運行車両については、路線運行車両が十八台、予備車両が二台であります。

利用人員については、平成十七年度が、四十万七千四百六十八人、十八年度が五十三万八千五百七十七人で、対前年比32・3%の伸びであります。

収入については、平成十七年度が六千六百五十七万二千八百八十円、平成十八年度が八千六百三十一万九千九百円で対前年比29・6%の伸びでありました。これらの伸びについては、合併により二路線が増えたことが大きく貢献しているものであります。

次に、本年四月から十月までの利用人員は、三十七万九千五百五十八人で、対前年同期比9・3%増、収入が六千五百三十一万七千七百円で対前年同期比8・5%の伸びであり、今後は年間10%程度の伸びになると思われます。

市民の足の確保、利便性向上に大きく貢献しているものと考えておりますので、原油高による料金の値上げは今のところ考えておりません。今後とも、利用しやすく、安全・安心、快適な市営バス運行に努めてまいります。



平成20年度中に完成予定の観光交流センター

## 平成二十年度予算編成について

質問（小野寺尚武議員）平成二十年度予算編成にあたっての基本的事項について伺います。

答弁（市長）景気が穏やかに回復するなか、市税収入に若干明るい兆しが見えるものの、依然として厳しい財政状況にあり、限られた財源の有効活用を心がけ、きめ細かな諸施策を力強く推進するため、予算編成にあたって、特に留意すべきものとして七つの基本的事項を定めました。一つに、総合計画に沿って行財政需要

に適切に対処すること。二つに、実施計画計上事業を優先して実施すること。三つ目に、全施策の優先順位を明確にし、限られた財源の重点的・効率的な配分に徹すること。四つ目に、投資的経費には合併特例債を積極的に活用し、単独経費を極力縮減すること。五つ目に、年度途中の補正は、制度改革や災害関係経費等真にやむを得ないものについてのみ行うこと。六つ目に、經常的経費については、原則と

して前年度当初予算以下とし、特に物件費は、徹底した見直しを行い経費節減に努めること。七つ目に、財団等の外郭団体の運営経費に対する委託料及び補助金等については、その団体の自主財源の強化及び業務運営の効率化等により極力縮減することです。このように平成二十年度予算編成にあたっては、限られた財源の重点的効率的な配分を行い、市民ニーズに適切に対処することとしております。



当面運賃の値上げは行わない方針